



富山県美術館
アート&デザイン

2022.12/10 sat → 2023.3/5 sun
開館時間：9:30 → 18:00(入館は17:30まで) / 休館日：毎週水曜日、年末年始(12/29 - 1/3)、1/10
Kano Yuma 狩野佑真

SPREAD 山田春奈 / 小林弘和

Opening Hours: 9:30 AM - 6:00 PM (Last admission is 5:30 PM) / Exhibition Closed: Wednesday, New Year holidays (Dec. 29-Jan. 3), Jan. 10
[主催] 富山県美術館、北日本新聞社、北日本放送 / (Organized by) Toyama Prefectural Museum of Art and Design,
The Kantippon Shimbum Co., Ltd., Kitanhon Broadcasting Co., Ltd.
富山県美術館 〒930-0806 富山市本郷町3-20 ☎076-431-2711

we+ 林登志也 / 安藤北斗

Okazaki Tomohiro 岡崎智弘

Toyama Prefectural Museum of Art and Design
5th Anniversary: Design Scope
アートデザイン
DESIGN
SCOPE
アートデザイン

富山県美術館開館5周年記念
デザインスコープのえいふしぎ
Hayashi Yuki 林勇気

Shimura Nobuhiro 志村信裕

Misawa Haruka 三澤 凜

Suzuki Yasuhiro 鈴木康広

Toyama City Toyama 930-0806 Tel +81 76 431 2711



photo: 鈴木康広《東京の人》東京ミッドタウン芝生広場 2019年
※掲載されている画像は著作権作品です。無断で展示作品とは異なる場合があります。

SPREAD

山田春奈(1976年生まれ)と小林弘和(1976年生まれ)によるクリエイティブ・ユニット。長い時間軸で環境を捉えるランドスケープデザインの思考と鮮烈な印象を視覚に伝えるグラフィックデザインの手法を融合。環境・生物・物・時間・歴史・色・文字、あらゆる記憶を取り入れ“SPREAD = 広げる”クリエイティブを行う。主な仕事に「国立新美術館開館10周年」記念ビジュアル、工場見学イベント「燕三条工場の祭典」など。



photo:神宮直樹



《Much Peace, Love and Joy》2021年 photo:神宮直樹

we+

リサーチと実験に立脚した手法で、新たな視点と価値をあたりにするコンテンポラリーデザインスタジオ。林登志也(1980年生まれ)と安藤北斗(1982年生まれ)により2013年に設立。自然と人工の融合を模索する「Nature Study」や、都市の廃材を土着の素材と見立てる「Urban Origin」をはじめとした自主プロジェクトを国内外で発表。そこから得られた知見を生かし、リサーチ・アンド・ディベロップメントやインスタレーション等さまざまな企業や組織のプロジェクトを手がける。



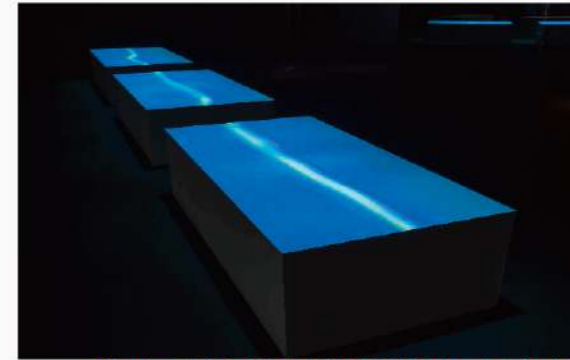
《Peep》2017年 photo:林 雅之

志村信裕

アーティスト。1982年生まれ。2007年武蔵野美術大学大学院映像コース修了。2016年から2018年まで文化庁新進芸術家海外研修員としてパリに滞在。身近な日用品や風景を題材にした映像インスタレーション作品を美術館や芸術祭で発表する。近年では各地でのフィールドワークを元に、ドキュメンタリー的手法を取り入れた映像作品を制作。ローカルな視点から、可視化され難い社会問題や歴史に焦点をあてるプロジェクトを手がける。



photo:Ryuichi Maruo



《Blue Hour》2021年 KAAT神奈川芸術劇場での展示風景 photo:Ken Kato

林 勇氣

映像作家。1976年生まれ。膨大な量の写真をコンピューターに取り込み、切り抜き重ね合わせることでアニメーションを制作。自ら撮影した写真のほか、人々から提供された写真やインタビューを素材とした制作により、デジタル・メディアやインターネットを介して行われる現代的なコミュニケーションや記憶のあり方を問い直す。近年は他領域とのコラボレーションや、ワークショップを通しての作品制作も多数試み、映像が内包する拡張性や協働的な側面について模索している。



photo:木島真三



《Image Data - A to Z》2017年 Gallery PARCでの展示風景 photo:齋生田典香

岡崎智弘

グラフィックデザイナー / デザイナー。1981年生まれ。2011年デザインスタジオSWIMMINGを設立。グラフィックデザインの思考を基軸に、印刷物 / 映像 / 展覧会など視覚伝達を中心とした領域を繋ぎながら、文化と経済の両輪でデザインの仕事に取り組んでいる。デザインの仕事は、自分が知らない世界や事象と向き合う機会となることや、人や社会と繋がる行為となること、また世界の捉え方や構造を発見し組み立てることができる可能性に大きな魅力を感じている。



《Matchee Wall》2022年

三澤 遥

デザイナー。日本デザインセンター三澤デザイン研究室室長。武蔵野美術大学卒業後、デザインオフィスnendoを経て、2009年より日本デザインセンター原デザイン研究所に所属。2014年より三澤デザイン研究室として活動開始。ものごとの奥に潜む原理を観察し、そこから引き出した未知の可能性を視覚化する試みを、実験的なアプローチによって続けている。著書に「waterscape」(出版:X-Knowledge)。



《動感》2018年 photo:林 雅之

狩野佑真

デザインディレクター / デザイナー。1988年生まれ。東京造形大学デザイン学科室内建築専攻卒業。2012年にデザイン事務所STUDIO YUMAKANOを設立。ネジ1本から、プロダクト、インテリア、マテリアルリサーチまで、実験的なアプローチとプロトタイプングを重視したプロセスを組み合わせ、様々な物事をデザインの対象として活動している。近年はミラノやパリをはじめとする欧州や日本国内の様々な場所で精力的に作品を発表している。



《Rust Harvest》2018年 photo:Gottingham

鈴木康広

アーティスト。1979年生まれ。日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与える作品によって、世界の見方を問いかける活動を続けている。公園の遊具を使用した映像インスタレーション作品《遊具の透視法》をはじめ、瀬戸内海を開く《ファスナーの船》など、身近なものを媒介に、感覚や意識を「地球」へと接続する作品を制作している。2021年、原美術館ARCの中庭に《日本列島のベンチ》を設置。近年は、その場所にひそむ目に見えないものにかたちを与え、訪れた人との邂逅によって立ち現れる景色に着目している。



photo: Timothee Lambrecq



《空気の人》東京ミッドタウン芝生広場 2018年 photo:鈴木康広

富山県美術館開館5周年記念 デザインスコープ —のぞく ふしぎ きづく ふしぎ

Toyama Prefectural Museum of Art and Design 5th Anniversary: Design Scope

2022.12/10 sat → 2023.3/5 sun

開館時間：9:30 → 18:00 (入館は17:30まで)

休館日：毎週水曜日、年末年始(12/29 - 1/3)、1/10

会場：富山県美術館 展示室2、3、4

はるか遠くの星々を観測できる望遠鏡(telescope)、微生物や細胞を観察できる顕微鏡(microscope)。人間はさまざまなレンズを用いた器具を使うことで、自らが認識できる世界を拡張し、新たな技術や価値観を生み出してきました。

本展では、「デザイン」というレンズを通した視点を「デザインスコープ(design-scope)」と名付け、現在第一線で活躍するデザイナーやアーティストと対話を重ね、これからデザインがどのような提案をすることが可能なのか、またデザインとアートが限りなく近づく現在の状況を、マイクロ/マクロの視点から俯瞰します。そして、本展のために新たに制作された作品や、音や映像などを用いた、空間全体を楽しむことができる展示を通して、デザインとアートの持つ創造的なエネルギーを体感し、楽しさや驚き、次世代に向けた可能性を、ここ富山の地から発信します。

[会期中のトークイベント]

12月10日(土)：鈴木康広×川上典李子(富山県美術館デザインディレクター)

12月17日(土)：狩野佑真×宮前義之(A-POC ABLE ISSEY MIYAKE デザイナー)

12月24日(土)：we+ (林登志也・安藤北斗)×志村信裕

12月25日(日)：林 勇氣×以倉 新(富山県美術館学芸課主幹)※ギャラリートーク

1月14日(土)：永井裕明(グラフィックデザイナー、富山県美術館ポスターデザイン※2022年度-)×川上典李子

2月11日(土)：三澤 遼×武井祥平(nomena代表取締役、エンジニア)

2月18日(土)：岡崎智弘×SPREAD(山田春奈、小林弘和)

3月4日(土)：桐山登土樹(富山県美術館副館長)×ゲスト(未定)

会場：富山県美術館 3Fホール 14:00～15:30

入場無料

詳細は富山県美術館ホームページ・SNSをご確認ください。
内容は急きょ変更になる場合があります。

[ご来館される皆様へ]

○ご来館の皆様には、マスクの着用/適切な距離の確保/咳エチケット/風邪症状がある場合のご来館自粛など、新型コロナウイルス感染症防止にご協力いただけますようお願い申し上げます。○土日祝などに混雑が発生した場合には、入場制限を行う場合がございます。○記載内容は都合により変更する場合があります。当館ホームページ、SNS等をご確認の上ご来館されることをお勧めいたします。

[観覧料]

・一般 ¥1,100

・一般[団体]・前売り ¥850

・大学生 ¥550

・大学生[団体] ¥420

※企画展入場当日に限りコレクション展もご覧いただけます。

※各種手帳をお持ちの方および付添者1名の観覧は無料

※学校観覧、社会教育活動としての児童・生徒の引率者は無料

※「リピーター割」や「クマ割」を実施中。詳細については、ホームページをご覧ください。

●前売り券販売所(2022年12月9日まで販売)

富山県美術館、富山県水墨美術館、アーツナビ

[同時期開催]

林 勇氣「もうひとつの世界の見方 002・ワークショップと展示」

●館内無料ゾーン展示：2022年12月10日(土)

- 2023年3月5日(日)

●3階ホール展示：2022年12月25日(日)

- 2023年1月9日(月・祝)(12/28～1/4は休館)、

及び1/14(土)～29(日)の土日開催

●観覧料：無料

※イベント開催等により臨時閉室する場合があります。詳細は富山県美術館ホームページ、SNS等をご確認ください。

●ワークショップ

10/29(土) 14:00～15:00

定員10名 / 無料 / 要申込

※詳しくは美術館ホームページをご確認ください。

[Access]

●富山駅北口から…徒歩 約15分 / タクシー 約3分 / バス 1番のりばより乗車「富山県美術館」下車すぐ

●富山空港から…タクシー・車 約20分(約9km)

●北陸自動車道から…富山I.C.から国道41号経由約15分

※美術館の駐車場(8:00～22:30)は限りがあり、土日祝は混雑が予想されます。お越しの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。清早の際は、環水公園立体駐車場など周辺駐車場をご利用ください。

富山県美術館(TAD) Toyama Prefectural Museum of Art and Design

〒930-0806 富山市木場町3-20

3-20 Kiba-machi, Toyama City, Toyama, 930-0806, Japan

tel.076-431-2711

fax.076-431-2712

○富山県美術館ホームページ：https://tad-toyama.jp/

